

## 中国における社区「医養結合」の断片化の実態

## —上海市の事例に基づく分析—

○ 同志社大学 張 芝菱 (010061)

キーワード3つ：医療と介護の連携・断片化分析・事例研究

## 1. 研究目的

中国では急速な人口高齢化を背景に、医療と介護双方のニーズを持つ高齢者が増加し、包括的なサービス提供体制の構築が急務となっている。しかし、現行の「医養結合」（医療と介護の連携）では、サービス間の連携不足、すなわち「断片化」が深刻な課題と指摘される（鄭ら 2021：3689）。この断片化は、制度・政策、地域サービスシステム、個別ケアプロセスといった多層的な要因が複雑に絡み合う構造的問題である（張 2025：45）。特に、断片化の程度や深刻さを客観的に把握することは困難で、評価指標や表現も曖昧な状況にある。この課題への有効な解決策を講じる前提として、まず実態を正確に把握することが不可欠である。

このように問題意識に基づき、本研究は地域包括ケアシステムの国際的理論である Community-Based Integrated Care (CBIC) 理論に着目する。CBIC 理論は、ケアの継続性・協調性・利用者中心性といった、「断片化」とは対極にある「統合ケア」実現の諸原則を提示し、複雑な断片化現象の分析・評価に有効な視座を提供する。そこで筆者は先行研究を踏まえ CBIC 理論の中核要素を検討し、中国の社区「医養結合」という固有の文脈に適合させ、断片化の状況を多角的に評価する独自の「断片化評価フレームワーク」を構築した。

本研究の目的は、構築した「断片化評価フレームワーク」を中国の都市事例に適用し、これまで曖昧だった社区「医養結合」における断片化の具体的な実態と特徴を実証的に明らかにすることである。具体的には、上海市を事例にインタビュー調査及びフィールドワークを実施し、得られた質的データを本フレームワークに基づき分析する。本研究による現状把握と分析は、将来的な断片化改善策の考案や、中国における「医養結合」サービスの質向上に資する基礎的知見の提供を目指す。

## 2. 研究の視点および方法

本研究の分析枠組みは、前述の社区「医養結合」サービス「断片化評価フレームワーク」である。これは「政策統合性」「組織協働」「サービスプロセス」「情報共有」「資源配分」の複数次元から断片化を多角的に捉える。本フレームワークに基づき、上海市で質的調査（半構造化インタビュー、フィールドワーク）を実施した。対象は高齢者家族、サービス提供者、行政担当者等である。データ分析は佐藤（2008）等を参照した。

上海市を選定した理由は主に三点ある。①同市は高齢化が進行し「医養結合」の先進地域である一方、断片化の課題も推察され、本フレームワークの有効性検証に最適である点。

②同市の事例分析から断片化の構造的要因や解決への示唆導出が期待できる点。さらに③同市の知見が他都市への政策的・実践的示唆を与えうる点である。

### 3. 倫理的配慮

本研究で実施した事例調査は、事前に同志社大学社会学部・社会学研究科倫理審査委員会の承認を得ており（承認番号：2024-0011、承認日：2024年7月24日）、『日本社会福祉学会研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン』を厳格に遵守し、対象者の権利とプライバシー保護に最大限配慮して実施した。なお、本研究に関連する利益相反（COI）はない。

### 4. 研究結果

本研究で用いた断片化評価フレームワークに基づき上海市の事例を分析した結果、以下の各次元における断片化の実態が明らかになった。①**政策統合性**：中央・地方政府の政策意図と現場執行の間に乖離が見られ、特に関連部門間の連携不足や実効的な財政支援メカニズムの未整備が、制度レベルでの政策効果を阻害している。②**組織協働**：医療機関と養老（介護）機関間の実質的連携は限定的で、多職種チームによる協働アプローチも十分に機能していない。地域資源の統合も進まず、各機関が独立してサービスを提供する傾向がある。③**サービスプロセス**：サービス提供の各段階で連携が不十分であり、手続きの煩雑さやアクセスの困難さが利用者負担を招いている。ICT技術の活用も限定的で、サービスの重複や欠落が生じる。④**情報共有**：医療・介護情報の共有はシステム未整備や非互換性により著しく制限される。統一的情報プラットフォームの欠如が、質の高いケアプラン作成や迅速な対応を困難にしている。⑤**資源配分**：資金配分の非効率性や、医療・介護双方の専門知識を持つ人材不足が顕著である。施設・設備の有効活用や地域内での適正配置も進まず、資源全体の効率的な利用ができていない。

### 5. 考察

本研究で明らかにした断片化の構造的要因（例：制度設計の課題、関係機関の連携不足等）は、実効性ある政策形成と現場の連携強化に向けた具体的示唆を与える。これは「医養結合」の質向上に資するものであり、政策立案者への提言や実践的な連携モデル構築への基礎的知見となりうる。

本研究は一都市の事例であり限界も有するが、今後は他都市比較による知見の一般化や、本フレームワークの評価指標の客観性向上等、更なる精緻化が課題である。

参考文献：

鄭研輝, 郝曉寧. 基於整合服務框架的社區醫養結合服務發展路徑研究[J]. 護理研究, 2021, 35(20): 3689-3694.

張芝菱 (2025) 中国都市部社区居宅養老サービス「医養結合」の現状と課題-文献レビューから-『評論・社会科学』(152)3, 29-51.

佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社